大分大学ボードセイリング部 安全対策

① 出艇前に確認すること

・風や天候の状況

・海上に持っていく道具の確認

＊ライフジャケット

＊時計

＊レスキューシート

＊携帯(海保は 118)

＊ホイッスル

・道具の劣化を確認（例:シートのほつれ、ジョイントベースの亀裂、マスト、カム、Ｔ字のヒビ等々）

・低学年は強風時、浜の風上まで艇を引っ張って出艇すること

・風が強いなど出艇に不安がある場合は、先輩の指示を仰ぐこと

・ウォーミングアップをし、身体を温める

・ウィンドサーフィンができる体調であるか見極める

② 監視体制

・練習は必ず 2 人以上で行う

・誰が出艇しているか確認

・強風時、お互いどこで乗っているかを確認

・練習途中で帰着する際は必ず近くの部員に伝える

・夏季は 16 時、冬季は 15 時に必ず帰着完了すること

③ それでもトラブルが起きたら

・ボード上で待機すること(水中は空気中の 25 倍の速さで体感が奪われる、特に海苔網付近は潜ると危険)

・セールとボードは離さないこと（セールだけだと沈む。ボードだけだと流されるスピードードが速い）

➡もしジョイントが外れてしまったら必ずボードを優先

・パドリングで最も近い岸を目指す

・手信号で先輩に救助要請

・帆走不可能:片手パーで横に大きく振る

・帆走可能 :両手グーで横に大きく振る

・全員帰着 :主将が手を回す

・対象者のみ帰着:対象者のほうを向き、戻す方向を指す

・自分帰着 :手を挙げる。それに答えるとき同動作

・岸に辿りつけず、部内でのレスキューが困難だと判断した場合にはすぐに海上 保安庁 118 に電話する

④ 大地震（津波）が来たら

・スマートフォンで緊急地震速報を確認したらすぐに帰着 着替え片付けはせず、すぐに車に乗り込み高台へ

・間に合わないようであればなるべく沖に艇を出す タンカー、漁船等に助けを求める。

➡タンカーはアンカーを全力で叩けば気づいてくれる。アンカーを登って船内に上ることも可能

最後に、ウィンドサーフィンが気象条件や器材トラブルで生命の危険にも陥るリスクの高いスポーツであることを部員全員が理解し、そのリスクを少しでも少なくするように常に心がけること。